

# 大学文書館へ 行こう

## 第17回 「札幌の気象観測」

北海道大学大学文書館 井上 高聡



W・ホイラー

### 気象観測の始まり

今夏は非常に暑い七、八月でした。札幌では八月二十三日に三十六・三度を観測し、一九九四年八月七日の三十六・二度を上回って、観測史上最高気温を更新しました。二八七六年の統計開始以来、一四八年間で一番高い気温というニュースが駆け巡りました。さて、「一八七六年の統計開始」という表現が気に掛かります。一八七六年は札幌農学校開校の年、この統計開始に札幌農学校が関わっています。

北海道「開拓」に助言をしていた開拓顧問のホールズ・ケプロンらにより、早くから北海道で気象観測を行なう重要性が指摘されてきました。本州以南とは全く異なる気候の北海道を農業開発するためには、その気候に

あった農作物を適切な方法で栽培する必要があったためです。実際に、日本では、函館、東京、札幌の順番で気象観測が始まっています。札幌で気象観測が始まったのは、一八七六年九月一日、札幌農学校開校(八月十四日)の半月後です。

### 観測を始めたW・ホイラー



開拓使本陣建物 W.S.クラーク離札にあたり建物前に札幌農学校生徒・教員などが整列している(1877年4月)

時代のクラークの教え子です。ホイラーは札幌農学校では工学や数学などの講義を担当し、札幌農学校演武場建物(現在の札幌市時計台)の設計計画を提示したり、豊平橋を設計したり、運河開削を提言したりしています。土木工学が専門ですから、気象観測の機具の操作や統計整理にも長けていたことでしょう。

札幌農学校の年次報告書である『札幌農學第一年報(一八七七年)の英語版』には、ホイラーが英文で「気象観測レポート」を掲載しています。一八七六年九月一日に気象観測を始めたこと、午前七時、午後二時、午後九時の三回、外気の気温、大気の圧力、水蒸気の圧力、湿度、風向、風速と進度、雲量、雲の形・種類に加え、雷、虹、光輪、地震、早霜、遅霜、凍結地面の深さ、さらに不規則的な異常現象の記録を取っていると記しています。

翌年の「札幌農學第二年報」(一八七八年三月)の「気象観測レポート」には、北海道の気候が農業において極めて好適であること、同緯度あるいはやや低緯度に位置する他国で産する主要作物を栽培できる可能性があること、北海道が酷寒にして荒涼とした居住不可能な地域という昔ながらの説は、本州以南の衣服や家作や暖房の方法が適格的でなかったための誤解であること、などを説いています。

ちなみに、ホイラーが観測を始めて迎えた最初の夏、一八七七年の最高気温は八月七日に記録した華氏八七・八度(摂氏三〇・九度)でした。今年の最高気温を記録したのと同じ八月二十三日の最高気温は、華氏七四・三度(摂氏二三・〇度)です。

その後一八九〇年、北海道庁は札幌農学校から農場敷地の一部を引き渡しを受け、「札幌測候所」を設置します。現在の北区北八条西九丁目付近、大学構内の「保育所」ともに「西側」にあるテニスコートの辺りから、大学構外の北八条通が石山通に流れ込む交差点に建つマンションに掛けて、大学の内と外に跨がる敷地です。一九三八年に札幌測候所が北海道庁から国に移管されたり、札幌の気象観測は大学のお隣りで行なわれていました。

ホイラーの気象観測記録  
("First Annual Report of Sapporo Agricultural College, 1877.")